

事業について

事業概況



石油開発事業



石油事業（精製・販売）



石油化学事業

概 要	アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国において、原油の自主開発・生産を行う事業です。	輸入した原油を製油所で精製し、全国のサービスステーションや工場等へ販売する事業です。	ポリエステル繊維、ペットボトル、プラスチック、合成ゴム等の原料の製造を行う事業です。
売上高 ※1	558億円	2兆2,207億円	481億円
経常利益 ※1	186億円	△628億円	41億円
経常利益 ※1 (在庫評価影響除き)	186億円	58億円	42億円
従業員数 ※2	306名	4,744名	1,071名

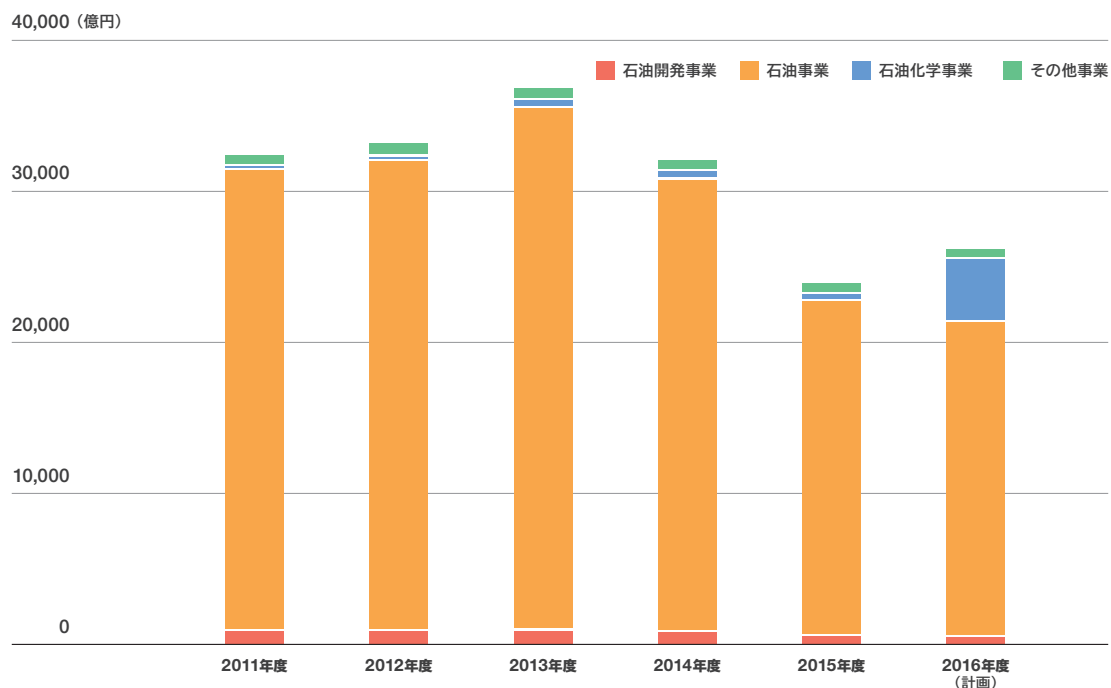
※1 2015年度実績（自2015年4月1日 至2016年3月31日）

※2 2016年3月31日現在

※3 連結処理を含む

※4 風力発電事業（エコ・パワー）は85名

セグメント別売上高





その他事業 (再生可能エネルギー)

石油関連以外の事業です。主に再生可能エネルギーとして、風力発電事業を展開しています。

714億円

35億円

35億円

995名 ※4

合 計

—

2兆2,443億円 ※3

△361億円 ※3

326億円 ※3

7,116名

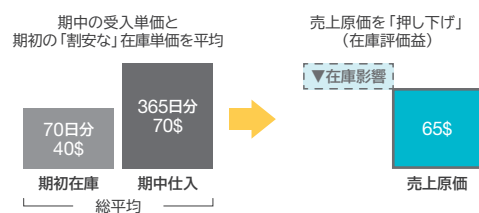
在庫評価影響とは

「在庫評価影響」とは、原油価格が変動した際、棚卸資産の評価方法によって、決算上の売上原価が影響を受けることを指し、以下の2つに区分されます。

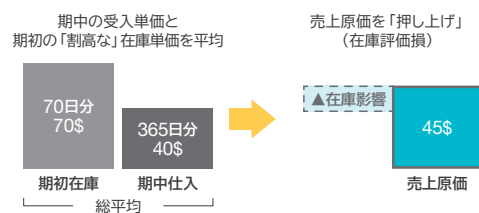
総平均法による在庫評価影響

棚卸資産の評価方法である「総平均法」によって受ける収益上の影響を指します。原油価格上昇局面では、期中の上昇した仕入在庫単価が期中比安値の期初の在庫単価と平均されるため、売上原価を押し下げ（コスト減少＝在庫評価益）、反対に原油価格下落局面では、期中の下落した仕入在庫単価が期中比高値の期初の在庫単価と平均されるため、売上原価を押し上げることとなります（コスト増加＝在庫評価損）。

原油価格が上昇する局面



原油価格が下落する局面



簿価切り下げによる在庫評価影響

棚卸資産の期末時点の時価が簿価を下回っている場合、簿価を時価まで切り下げることが必要となり、これにより損失が発生することを指します（コスト増加＝在庫評価損）。

セグメント別経常利益（在庫評価影響除き）

